これから蒔く

# 宿根草花と秋植球根の作り方

佐々木篤太

長い冬から解放され若葉が萌え出し、やわらかい空気を十分満喫できる時期になつても、われわれの周囲になにも色どるものがないということは非常に寂しいことである。隣を見たらパンジーやチューリップが咲き始めている。あわてて畑を耕し種を播いても初夏以降でなければ花は咲いてくれない。来年のことを言うと鬼が笑うというが、わが家を、あるいは都会を、農村を美化するには、前年からの準備がなにより大切なことである。この意味で、春から初夏にかけわれわれの目を楽しませてくれるもので、種子から簡単にできる宿根草花と、秋植球根類の作り方について若干述べてみたいと思う。

## 土壌と肥料

だが花を咲かせるだけならば、どこに投げておいても花は咲くが、それだけでは満足なものにはならない。一般的にいうと、排水の良いということが第一条件である。水の停滞するようなところは病害の発生多く、せつかく植えたものも駄目にしてしまう。また乾燥し過ぎるとチューリップなど極度に生育が悪くなるから、これも十分気をつけるべきである。土質として極端な砂土、粘土はもちろん良くなく、また酸性が強いのも面白くない。この場合は堆厩肥を施して土壌を改良するとともに、石灰を施して（坪当り一〇〇～一五〇匁）中和することが必要である。花卉栽培に最も適する土壌としては砂質壌土と粘質壌土の二つの場合である。前者は草丈伸びやすく開花が促進され球根類に良く、後者は良くしまつたものができ宿根草あるいは球根生産目的の場合等には良い。

つぎに肥料であるが、花卉は茎・葉・花の三拍手揃うことが大切である。窒素質は多過ぎると茎葉ばかり繁茂して花が貧弱になるから、ひかえ目に施す必要がある。燐酸質は花を大きくし花色を良くする。加里質は植物全体を丈夫にし、とくに球根生産には多く施す必要がある。従来花卉栽培には油粕や魚粕のような三要素を適当に含有する遅効性のものを元肥にし、あとは液肥を追肥として施していたが、この有機質肥料は平均に少しずつ効いていくため、花卉の肥料としては最も適したものである。

球根類はこのほか草木灰などを加え加里分を補つてやる。また生の粕類でカビの発生を促し球根を傷める恐れがあるから、乾燥肥料を用いると一層安全である。

液肥及び乾燥肥料の作り方はつぎのとおりである。

液肥…水五升に魚粕または油粕一升を投入、二～三カ月間腐熟せしめたもの。使用の際は三～四倍以上に薄める。

乾肥…魚粕七升、米糠二升、藁灰二升、土一斗、または油粕八升、米糠三升、藁灰二升、土一斗を調合し、水を注いで良く混ぜ、均等に湿らせた後、箱などに入れ密閉、醗酵させ、二週間ぐらいたつたらさらに水を注ぎ、（握られるくらい）よくかきまぜ、前と同様にし、一カ月ぐらい経過したら完全に醗酵が終るからこれを貯蔵しておく。

## 播種及び植込み

宿根草は播種床を設け、苗を養成し、九月中旬以降、涼しくなつてから予定の場所に定植したほうがよいのであるが、所定の場所に直播しても差支えない。播種床は適宜の大きさのものを設け、よく整地し、撒播もしくは二～三寸幅に条播し、一分目篩で軽く覆土し、とくに乾くようであれば藁を敷き、発芽してきたらとり除いてやる。本葉二枚ぐらいの時間引き、徒長させないようにする。直播の場合は畦または所定の場所に基肥を施し、播種してごく軽く覆土を行い、よく鎮圧して発芽後適宜間引いてやる。球根類は適宜の幅の床〇・八～一尺ぐらい掘上げ、基肥を施し、十分混和し五寸ぐらい土を入れ、球根を植込み覆土する。この場合、球根を直接肥料に触れさせないようにする。また乾燥肥料を用いる時は肥料を床全体にばらまき、十分鍬込んでよくならし、球根を植込んでもよい。覆土は大体球根の大いさの二～三倍ぐらいの厚さがよい。

## 病蟲害の防除

球根類は病菌の附着している恐れがあるから、必ずウスプルン八百倍液に約三十分漬け十分消毒をなし、後水洗いをして植込むようにする。生育中病気の発生を認めたら直ちにボルドー液を撒布してやる。（現在粉剤、水和剤ができ簡便になつた。水和剤は水一斗に二十匁ぐらいの割合でよい。）被害の甚しいものは抜き取つたほうがよい。とくに球根類でバイラスに罹つたものは徹底的に抜取るようにする。害虫としては茎葉の液汁を吸うハダニ類、アブラ虫類（バイラスの伝染の仲介となる）には硫酸ニコチン、ロテゾールなどの接触剤一、〇〇〇～八〇〇倍液を撒布、またヨトウ虫など茎葉、花を食害するものには砒酸鉛やBHC、DDTの粉剤、水和剤（水一斗に八～十二匁）を撒布してやる。（最近ホリドール、ニッカリン、テップなどの強力な薬剤が出ているが劇薬だから使用には十分注意しなければならない。）

## その他の管理

生育中の中耕除草はもちろん十分行う。宿根草は播種した翌年から毎年咲くのであるが、開花終了後茎葉が枯れ休眠期に入ったら畦間などに油粕類、堆肥などを鋤込んでやり、翌春発芽して活動を始めたら薄い液肥を施してやるとよい。球根類は茎葉が半分以上枯れてきたら掘上げてきれいにし、日蔭の風通しの良い所で十分乾燥し、植込むまで涼しい所に貯えおく。この場合サフランなどは鼠が好んで食べるから十分注意する。ただし百合類は掘上げてから直ちに植込みに入り連続作業のようになるし、球根を乾かすことは良くない。すなわち球根を水洗いしてきれいにし、直ちに前記のウスプルンで消毒し、植込の準備ができてなければ暗冷所になるべく乾かさないようにしておく。水仙などは毎年植変えなくても差支えない。

以上一般的なことがらについて記したが、個々のものについては左に一覧表として掲げてみた。ただし開花期その他札幌附近を標準としたものであり、その年の気候により多少の遅速はある。

## 宿根草花

| 花卉名 | 和名 | 開花期 | 繁殖法及び時期 | 草丈 | 用途 | 栽植距離 花壇 | 栽植距離 圃場 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ダイアンサス | 石竹 | 七月九月 | 種子五月中下旬 | 〇・七～一・五尺 | 花壇 | 六寸×六寸 | 一五×六寸 | 二年草として取扱われる。 |
| パンジー | 三色スミレ | 五月上旬より | 種子七月中下旬 | 五寸 | 花壇、鉢植 | 五×六寸～六寸 | | 花色豊富。 |
| ジプソフィーラ | 宿根カスミ草 | 七月上旬より | 種子五月中下旬 | 二尺 | 花壇 | 一〇×一〇寸 | | 二年草として取扱われる。 |
| パニキュラータ | | | 株分九月中下旬 | | 花壇 | 一〇×一〇寸 | | 青・黄・白あり。 |
| ルピナス | 立藤 | 六月上旬より | 種子五月中下旬 | 三尺位 | 花壇 | 一〇×一〇寸 | 二〇-二五×八-一〇寸 | 白色 |
| スウィートウイリアム | 美女撫子 | 六月上・中旬より | 種子五月中下旬 | 一・五～二尺 | 切花 花壇 | 一〇×七-一〇寸 | 二〇-二五×七-一〇寸 | 花色豊富 |
| オリエンタルポピー | 鬼ゲシ | 六月上旬より | 種子五月上中旬 | 四尺 | 花壇 | 一〇×一〇寸 | 二〇×一〇寸 | 赤・桃・白あり |
| アクイレギア | 西洋オダマキ | 六月中旬より | 種子五月上中旬 株分九月中下旬 | 一～二尺 | 花壇 | 一〇×一〇寸 | 一五-一八×一〇寸 | 青・黄・その他 |
| 宿根スターチス | 宿根スターチス | 八月上旬より | 種子五月中下旬 株分九月中下旬 | 二尺 | 花壇 | 一五×一〇寸 | 二〇-二五×一〇-一五寸 | |
| ピレスラム | 赤花除虫菊 | 五月下旬より | 種子五月上中旬 株分九月中下旬 | 二～三尺 | 花壇 | 一〇〇×一〇〇寸 | 二〇〇×一〇〇寸 | 桃・濃紅あり。 |
| シャスタデイジー | | 六月上旬より | 種子五月上中旬 株分九月中下旬 | 二～三尺 | 花壇 | 一〇〇×一〇〇寸 | 二〇〇×一〇〇寸 | 白・早生と晩生あり。 |

| 花卉名 | 和名 | 開花期 | 繁殖法及び時期 | 草丈 | 用途 | 栽植距離 花壇 | 栽植距離 圃場 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ヂギタリス | 狐のてぶくろ | 六月中・下旬より | 種子五月上中旬 株分九月中下旬 | 三～五尺 | 花壇 | 一五×一〇寸 | 二〇-二五×一二寸 | 紫紅・白あり。 |
| プラチコドン | 桔梗 | 八月上旬より | 種子五月中下旬 株分六月上中旬 | 二～三尺 | 花壇 切花 | 一〇×一〇寸 | 二〇×一〇寸 | 青・白あり。 |
| ベリス | 雛菊 | 五月中旬より | 種子五月上中旬 株分五月上旬 | 五寸 | 花壇 鉢植 | 五×六寸 五-六寸 | 一〇-一五×五-六寸 | 白・赤・桃あり。 |
| ミオソチス | 勿忘草 | 五月上・中旬より | 種子六月中下旬 | 六寸 | 花壇 鉢植 | 五×六寸 五-六寸 | 一〇-一五×五-六寸 | 二年草。白・青あり。 |

## 秋植球根類

| 種類名 | 和名 | 開花期 | 植込期 | 草丈 | 用途 | 栽植距離 花壇 | 栽植距離 圃場 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| リリー類 | 百合類 | 六月～八月 | 十月上中旬 | 二・五～三尺 | 花壇、切花、鉢植 | 五-一〇×五-一〇寸 | 二〇×一〇寸 | 多数の種類あり。 |
| ナーシサス | 水仙 | 五月上旬より | 九月中下旬 | 〇・六～一尺 | 花壇、切花、鉢植 | 五-六×五-六寸 | 一八×五-六寸 | 多数の品種あり。 |
| クロッカス | 花サフラン | 四月下旬より | 九月中下旬 | 五寸 | 花壇 鉢植 | 四-五×四-五寸 | 一五×四-五寸 | 青・黄・白あり。 |
| ヒアシンス | 錦百合 | 五月上旬より | 九月下旬 | 五～八寸 | 花壇 鉢植 | 五-六×五-六寸 | 一五×五-六寸 | 青・桃・白あり。 |
| チューリップ | | 五月中旬より | 九月中下旬 | 一～二・五尺 | 花壇 切花 | 五-六×五-六寸 | 一七-一〇×五-六寸 | 花色豊富、早生と晩生あり。 |
| アイリス類 | | 六月中旬より | 九月下旬より十月上旬 | 二～二・五尺 | 切花 花壇 | 一〇×五-六寸 | 一七-一〇×一〇寸 | 三種程あり。青・黄・白がある。 |

註　施肥量は一概に言えないが、大体は次のようなものである（坪当りの数量）

宿根草　油粕あるいは魚粕五〇匁、藁灰一〇〇匁（もしくは過燐酸石一〇匁、加里五匁を加える）、乾燥肥料ならば七～八合に藁灰一〇〇匁程度。

球根類　油粕五〇匁、魚粕五〇匁、藁灰一二〇匁（あるいは加里一五匁）、過燐酸石灰二〇匁。乾燥肥料ならば二～二・五升、藁灰一二〇匁（あるいは加里一五匁）、過燐酸石灰二〇匁。

（筆者は北海道農業試験場技師）